

常磐東小学校 校長だより

# 常なる磐

つねなる いわ

令和2年10月30日(金)  
その1

## ◇ 校歴を紐解く④【3本の橋】

児童昇降口前からグラウンドを望む。 手前は希望の塔の少女像。  
※移転新築記念碑 (S62)



山は秋色。最近、山を彩る茜色が日を追うごとに深みを増してきた。流石に香嵐溪とまではいかないが、身近にある景色の変化で季節の移り変わりを実感できるのは幸せである。個人的には、人でごった返す香嵐溪よりずっと好きである。

さらに陽が傾くと、西日が手前の山で遮られる。すると、山がすっぱりと日陰に収まり、西日が東名青木橋のみを照らす。

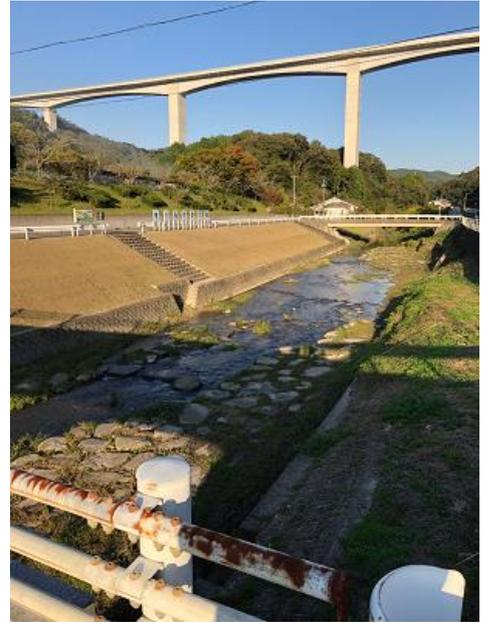


写真では分かりにくいかもしれないが、「橋が光る」のである。

西日がオレンジ色を醸し出し、白熱電灯のように優しく光る。とても美しい。

はじめは違和感を覚えた無機質な人口造成物に感じた橋が、今ではすっかり自然に溶け込んでいるように見えるから、不思議である。

橋と言えば、学校前の青木川にかかる二本の橋がある。  
正門前が「よねやま橋」。東側が「かなえ橋」。  
この2本の橋の間が「せせらぎの広場」である。  
※青木川河川敷



「せせらぎの広場」の造成は、第24代校長の荒木俊夫先生（在任H9.4～H13.4）の時代に行われている。記録写真によれば、平成10年には原型が完成されているが、平成12年の記録にも改修工事の記録がある。

現在と比べると敷石の数や形状が異なることから、水の流れ等を考慮して数年にわたって改修が行われたことが分かる。

「せせらぎの広場」とは、うまく名付けたものだ。この2つの橋の間のみ、はっきりと「川のせせらぎ」が聞こえる。敷石の絶妙な配置によって水の流れを調整し、絶妙な【せせらぎ】を演出しているのだ。

<平成10年5月 完成式>



<平成12年 河川敷改修工事>



完成式は22年前(移転新築12年目)。それにしても、コケの生命力は大したもの、学校を取り囲むコンクリート壁の上部は、すでに黒ずんでいる。

話を2本の橋に戻そう。「米山(よねやま)橋」と「鼎(かなえ)橋」。2本の橋の竣工は、移転新築前年の昭和61年である。この2つの橋の命名は、本校とゆかりのある名称から名づけられたことが、学校に残された記録から想像できる。

本校の開校は、今から遡ること120年前の明治34年。大柳尋常小学校、福田尋常小学校、**米山**(よねやま)尋常小学校の3校が合併して、現在の安戸公民館の地に「**鼎**(かなえ)尋常小学校」として呱呱の声をあげている。

「鼎(かなえ)」と名付けられたのは、3本の足を備えて安定感があり、勲功を後世に伝える器である「鼎」のように「3校合併の実」をあげようと、開校当時の地元の方々の思いが込められているのである。

そして2本の橋の間の「せせらぎの広場」も、地域の方の手作りの賜物である。